

# 技術資料

小形コンプレッサMIR2-8Wを用いて、どの程度の頻度でエアハンドを作動できるか試験しました。エアハンドのエア源としてご使用の際はご参照ください。

		作動頻度(cpm)							
エアハンド形式	印加圧力	10	20	30	40	50	60	75	85
AFDPG-8	0.2MPa	←	←	←	←	←	←	←	←
	0.3MPa	←	←	←	←	←	←	←	←
	0.4MPa	←	←	←	←	←	←	←	←

		作動頻度(cpm)							
エアハンド形式	印加圧力	10	20	30	40	50	60	75	85
AFDPG-12	0.2MPa	←	←	←	←	←	←	←	←
	0.3MPa	←	←	←	←	←	←	←	←
	0.4MPa	←	←	←	←	←	←	←	←

		作動頻度(cpm)							
エアハンド形式	印加圧力	10	20	30	40	50	60	75	85
NHBDPG-16	0.2MPa	←	←	←	←	←	←	←	←
	0.3MPa	←	←	←	←	←	←	←	←
	0.4MPa	←	←	←	←	←	←	←	←

		作動頻度(cpm)							
エアハンド形式	印加圧力	10	20	30	40	50	60	75	85
NHBDPG-20	0.2MPa	←	←	←	←	←	←	←	←
	0.3MPa	←	←	←	←	←	←	←	←
	0.4MPa	←	←	←	←	←	←	←	←

注) 実線は間欠運転で作動可能、点線は連続運転で作動可能を示します。  
連続運転でご使用の際は、内部温度が上昇するため周囲温度にご注意ください。

## 試験条件

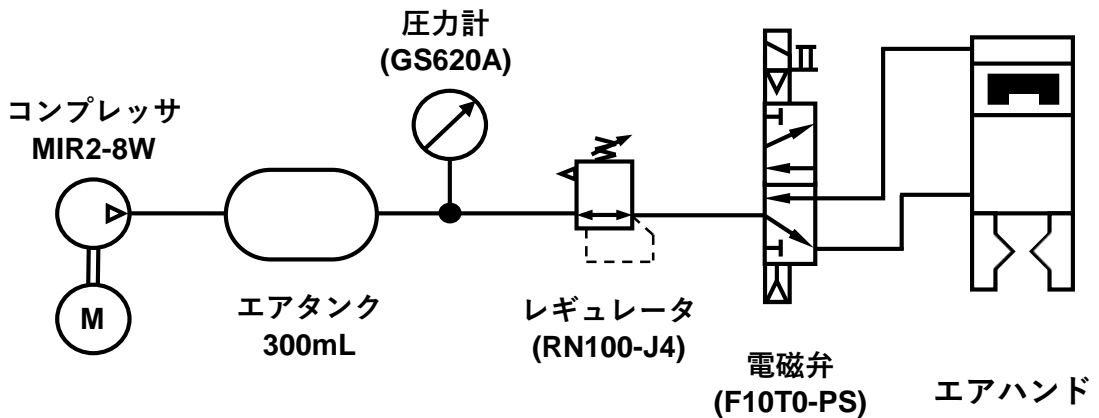


図1.試験回路

- ① 図1の構成でコンプレッサを作動させ圧縮空気を充填する。
- ② 内圧がアンロード圧力0.6MPaまで到達しコンプレッサが停止した直後、電磁弁を規定頻度で作動させる。
- ③ コンプレッサ作動開始から300s間の圧力を測定する。

測定時間：300秒(コンプレッサ作動開始から)

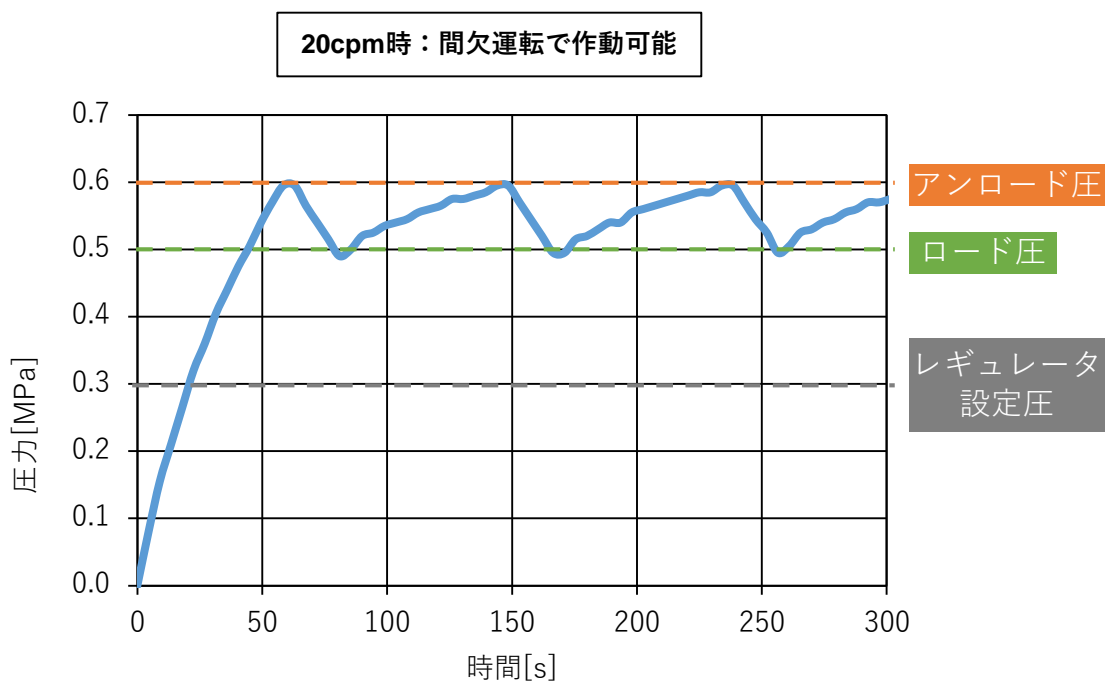
コンプレッサロード圧：0.5MPa(初期値)

レギュレータ設定圧：0.2, 0.3, 0.4MPa

作動頻度：10,20,30,40,50,60,75,85cpm

エアハンド：AFDPG-8, AFDPG-12, NHBDPG-16, NHBDPG-20

上記結果の中から一例として、エアハンドNHBDPG-16を設定圧力0.3MPaで作動させたときの圧力波形を示します。まずは、作動頻度が20cpmで作動させたときの結果です。



続いて、作動頻度を30cpmで作動させたときの結果です。

